

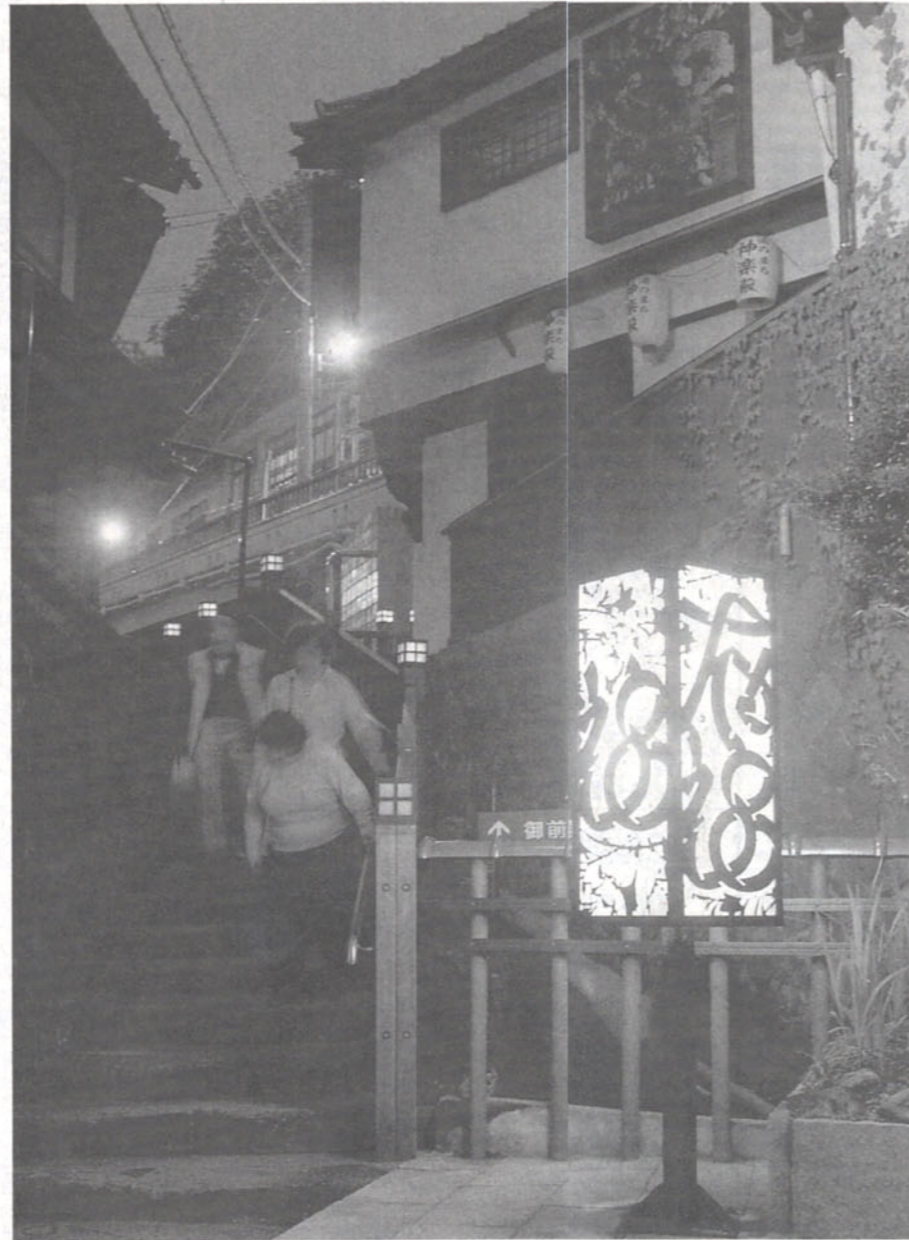
癒やしの旅

有福温泉郷

(島根県江津市)



坂道と石段沿いに旅館や外湯が並ぶ温泉街



「福ありの里」新たな顔

幾つもの坂や石段に沿って、身を寄せ合うように並ぶ家や商店、旅館。川のせせらぎと鳥の声が聞こえる賑びた空間に、古き良き時代の面影が漂う。1400年近く前、インドからやって来た修行僧・法道によって見いだされたという温泉が湧き、「福ありの里」と呼ばれる島根県江津市の有福温泉町を訪ねた。

「ゆつくりと、のどかな時間を楽しめる場所。関西、関東からの若いお客さんも増えてきました」と、旅館組合長の伊田光雄さん(52)。営む三階旅館は1869年(明治2年)の創業で、もとは「石見の殿様」の別邸だったという。伊田さん自ら約20キロ離れた浜田漁

港で魚介類を仕入れ、調理してもてなす。

一带には家族経営の旅館が6軒あり、江戸時代からの老舗も。3軒ある外湯(日帰り入浴場)の一つ、薬師堂前の「御前湯」はレンガ造りの外観で、浴槽中央の岩から源泉が湧く。いずれも心身を癒やし、美肌効果のある高温のアルカリ性単純泉だ。毎週土曜の夜に石見神楽が上演される神楽殿、懐かしい雰囲気漂う土産物店や名物・善太郎餅を売る店など、旅情を誘うスポットも点在する。

一方、昔ながらの風情に近年、新たな表情も加わった。1日一組限定の宿泊で貸し切り露天風呂を備え、竹炭焙煎のコーヒーやスイ

ーツも楽しめる「有福カフェ」。活性化を目指して設立された企業「有福振興」が事業第一弾として2010年に開いた。店長の藤井有紀子さん(44)は「宿の若い主人たちの新しい発想。少人数で好みに応じた挙式と披露宴ができる『有福婚』も人気です」と語る。晩年、石見国の国司として江津に赴いた歌人・柿本人麻呂が妻・よさみ姫と出会った古事から、温泉郷はNPO法人地域活性化支援センター(静岡市)が「恋人の聖地」に選んだ。△ご縁Vのシンボルとして、カフェの前にそのプレートが掛かる。

住宅や商店への土砂流入や浸水も相次いだ。休業に追い込まれた旅館もあったが、早期の復興へ導いたのは、この地を愛する人々の絆にほかならない。

夕暮れ時、宿や散策路にほんのりと灯りがともり始める。守り継がれてきたその光景が、「福ありの里」のゆつかりとした営みに溶け込んでいった。

(浜田支局 石田仁史)



ガイド
有福温泉へは山陽自動車道・広島インターチェンジ(IC、広島市)から中国自動車道、浜田自動車道を経て、山陰自動車道・浜田東ICから県道で約20分。広島ICからの所要時間は約1時間30分。御前湯、さつき湯、やよい湯の3外湯は午前7時〜午後9時半の営業で、大人400円、子ども200円。午後9時の営業(火曜のみ午後7時まで)。神楽殿での公演は午後8時半から約1時間で、観覧料は小学生以上1000円。問い合わせは、有福振興が運営する観光案内所(0854・56・2277、水曜休み)へ。



の文字や慮比須さまの顔をあしらった灯籠の新設、地熱を利用した発電の可能性調査もその一部。将来を見据え、魅力ある温泉郷であり続けよう工夫、チャレンジする息吹を感じながら、里の風情を満喫してもらえれば幸いです

有福温泉町
まちづくり協議会長

ほんこほら 盆子原 温さん (65)

「湯治場としての長い歴史と泉質の良さ、心を癒やす非日常的な空間。それを守りながら、地元の様々なく資源をより輝かせるための取り組みも続けています。『有福」

魅力づくりチャレンジ

⑤日暮れ時の温泉街。灯籠に「有福」の文字が浮かび上がる④新たな魅力を添える「聖地」のプレート

